

3

自然災害から くらしを守る



▲阪神淡路大震災(神戸市) 提供：神戸市

●兵庫県や加東市の自然災害

1995(平成7)年1月17日、最大震度7の地震により、兵庫県南部を中心に大きな被害が出ました。兵庫県内では、約14万軒の建物や家がこわれ、約7000軒の建物が火災で焼けました。

また、2004(平成16)年10月には台風23号がおそい、大雨のえいきょうで家のゆかの上まで水がたまりました。加東市でも1500軒以上の家がひがいをうけました。



▲1938年 阪神大水害 土石流(神戸市)



▲2014年 8月豪雨(丹波市)



▲2004年 台風23号(加東市)

年	主なできごと
1996	台風12号
2004	台風23号

▲加東市で起こった主な自然災害

年	主なできごと
1934	室戸台風
1959	伊勢湾台風
1967	六甲豪雨
1995	阪神淡路大震災
2004	台風23号
2009	台風9号
2014	8月豪雨
2018	西日本豪雨

▲兵庫県で起こった主な自然災害



「兵庫県や加東市では、これまでに地震や風水害が多く起きてきたんだね。」



「最近、風水害の被害がたくさん起こっているね。」

見方・考え方

県内では、今までどのような自然災害が起こり、どのような対応がとられてきたのかな。

まなびのポイント

身近な地いきで、以前に起こった自然災害について調べてみよう。

写真や地図などを見て、気づいたことを話し合おう。



▲洪水でこわれた家(2009年台風9号)
佐用川



▲洪水で通れなくなった橋(2014年8月豪雨)
国道75号八日市橋



▲給水車にならぶ人 提供：神戸市



▲ひなん所の様子 提供：神戸市

めあて

風水害によって、わたしたちのくらしはどのようなのかを考え、学習問題をつくりましょう。

●風水害とわたしたちのくらし

はやとさんたちは、大きな風水害が起きると、わたしたちのくらしはどのようなのかを話し合いました。



「家が水でつかった人のために、学校の体育館がひなん所になるよ。」



「橋がこわれて通れなくなると、助けが来るまでに時間がかかってしまうね。」



「兵庫県や加東市では、どのような対策をしているのかな。」

風水害に対して、どのような対策があるかを予想しよう

	だれが？	どのようなことをしている？
風水害が起きる前	・ ・ ・	
風水害が起きた後	・ ・ ・	

調べること

- ・家や学校、地いきではどのようなじゅんびをしているか。
- ・市役所や県、国の動きや協力体せい。

調べ方

- ・家や学校でインタビューをする。
- ・市役所の人に話を聞く。
- ・地いきや市、県、国の対さくについて、本やホームページで調べる。

まとめ方

- ・風水害からくらしを守るための取り組みについて調べたことを、カードにまとめて話し合う。

学習問題

風水害からくらしを守るために、だれがどのようなことをしているのでしょうか。

見方・考え方

大きな災害にそなえて、どのような協力が必要かな。

まなびのポイント

風水害は、くらしにどのようなえいきょうをあたえるのか考えてみよう。

学習問題をつくり、学習計画を立てよう。



▲急な斜面の対策工事(加東市)
がけくずれの危険がある場所で、住民の生命を守るための対策工事です。



▲堤防かさ上げ工事(多可町)
洪水などの水害を防ぐために、堤防を高くする工事を行っています。



めあて

兵庫県では、どのような取り組みをしているのでしょうか。

まなびのポイント

県では、風水害から県民を守るためにどのような対策をしているか調べよう。

自分の住んでいる地いきでは、そのほかに何をやっているか調べよう。

● 兵庫県の風水害への取り組み

はやとさんたちは、兵庫県が風水害にそなえてどのような取り組みをしているか調べました。



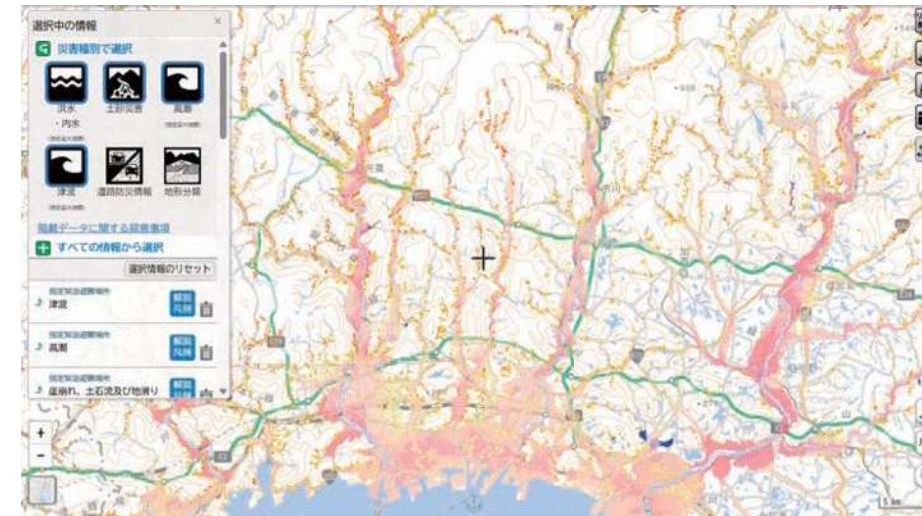
「兵庫県では、風水害が起きたとき、どのようにひなんすればよいかなどをまとめたパンフレットを作っているよ。」



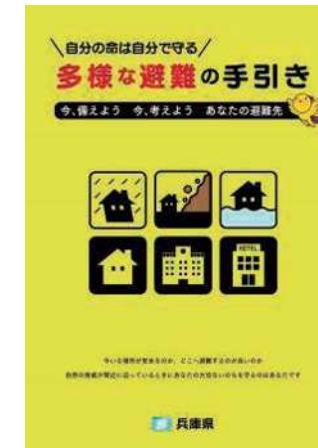
「ひなん所の位置やひがいが出ると予想される場所をのせたハザードマップも作っているね。」



「がけくずれや洪水をふせぐための工事も行っているよ。」



▲兵庫県のハザードマップ(CGハザードマップから)



▲兵庫県多様な避難の手引きパンフレット(HPから)



▲防災ツーリズム紹介動画

県庁(災害対策課)中川さんの話



兵庫県では、ハザードマップや避難の手引きパンフレットを作成し、県民の防災いしきを高められるようにしています。また、「ひようご防災ネット」のアプリにより、いち早く情報を受け取ったりマイ避難カードを作成したりできるようにしています。最近では、「防災」と「観光」を合わせた「防災ツーリズム」のPRや「備蓄キャンペーン」を実施するなど、防災について知っていただく取り組みを進めています。さらに、普段から、風水害の時に危ない斜面や川は、工事をして、風水害から県民の命を守れるように備えています。

ことば

ハザードマップ 自然災害によるひがいをへらしたり、防災対策に使用したりする目的で、ひがいが想定される区いきや、ひなん場所などの防災しせつの位置などを示した地図です。

見方・考え方

風水害のひがいが予想される地いきでは、どのようなふうや対さくが行われているのかな。



▲防災会議
災害にどのように対応するかなどを、災害に詳しい人の意見をききながら計画を立てています。



▲備蓄倉庫
加東市に11カ所あり、食料品や生活用品があります。



▲雨水ポンプ場(河高地区)
豪雨時の被害をへらすための排水施設です。停電しても使えるようになっています。

めあて

市役所では、どのような取り組みをしているのでしょうか。

●加東市の風水害への取り組み

はやとさんたちは、加東市役所に行って、風水害にそなえて、どのような取り組みをしているのか話を聞きました。

加東市役所(防災課)久米さんの話



加東市では、風水害などの災害が起きたときに、どのように対応するかを定めた、防災計画を作っています。防災計画に合わせて、備蓄品を購入保管し、災害に備えています。また、市民がどこにどのようにひなんするかなどを考えて、みんなが安心して生活できるように取り組んでいます。

まなびのポイント

市では、風水害から市民を守るためにどのような対応をしているか調べよう。

自分の住んでいる地いきでは、そのほかに何をやっているか調べよう。



「災害が起こる前から、計画をたてて、そなえているんだね。」



▲加東市のハザードマップ



「加東市では、大きな洪水が起こったことがあるから、ポンプ場や排水ポンプをつんだ車があるんだね。」



「市民の防災意識をたかめるために、ハザードマップを配布したり出前授業を行ったりしているよ。」



「加東市にはいくつも川があるから、市役所の人だけでは対応できないと思うよ。」



「大きな災害時は、国や自衛隊、県とも連携して対応するそうだよ。」

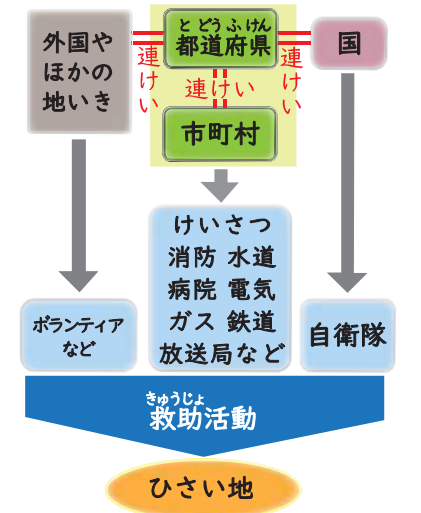
市と地いきの人々との協力や連携、役わり分たんについて調べることにしました。



▲出前講座の様子
市役所の人々が、災害へのそなえやひなんの仕方を小学生に教えています。

ことば

公助 国や都道府県、市区町村により行われる、自然災害からくらしを守るための取り組みのことです。





▲自主防災訓練

地域の人たちが、自分たちで防災訓練をして、災害に備えています。



▲ひ門点検



▲地域防災訓練

自衛隊や消防、警察などさまざまな立場の人たちが関わって、防災訓練を行っています。



▲避難所開設想定訓練 (HUG)



▲自主防災組織風水害対策会議
災害時に備えて、地区で会議をしています。

めあて

住民どうしでは、どのような取り組みをしているのでしょうか。

●地域の人々の取り組み

はやとさんたちは、災害にそなえた共助の取り組みについて、地いきの人にインタビューを行いました。



「風水害にそなえて、ひ門という水をとめる施設の点検を行っているんだね。」



「みんなで、避難所の運営を行えるように、ふだんから勉強をしているよ。」



「自衛隊や消防と協力して、地域の学校で合同訓練も行っているね。」

加東市では、災害に備えて、各地区でいろいろな取り組みが行われています。

まなびのポイント

住民どうしが協力してつくっている、地いきの防災組織について調べよう。

日ごろから地いきの人とどのような関わりをしていけばよいか考えよう。

河高地区 陰山区長の話



河高地区は、これまで加古川の浸水被害をうけてきました。そうした経験から、地区通信に防災情報をのせたり地区の運動会で防災クイズを行ったりして、地区の人が自分の命を自分で守れるように、防災意識を高めています。また、地区で名簿を作って、災害時には、お年寄りや病気の方も一緒に避難できるようにしています。

災害時は、日ごろからの「つながり」が役立ちます。運動会やお祭りなどで顔が見える関係を大切にしています。また、市の防災課とも話し合っ、いざという時に助け合いをとれるようにしています。

ことば

共助 自分や家族の安全をかくほした後、近所や地いきの人々と助け合えるよう、日ごろから地いきでの助け合いについて考えておくことが大切です。

見方・考え方

自主防災組織は、なぜつくられたのかな。



▲ひなん用リュックのなかみ

めあて

家庭では、どのような取り組みをしているのでしょうか。

まなびのポイント

家庭では、風水害にそなえてどのようなことをしているか話し合おう。

自分の家庭では、そのほかにどのような取り組みをしているか調べよう。

●自助の取り組み

はやとさんたちは、自分の家で、風水害にそなえて、どのようなことをしているか、家の人にインタビューしました。



「わたしの家では、ひなん用リュックを用意しているよ。水や食べ物、ラジオが入っているよ。」



「水道や電気が止まることもあるので、温めなくても食べられるものを用意しているよ。」



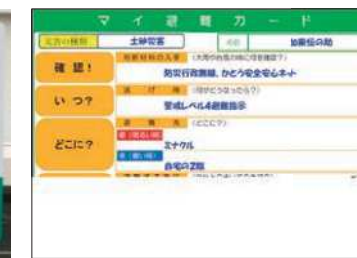
「ふだんから家族で、災害時の備えについて話し合っておくと安心だね。」



▲防災家族会議の様子



▲ひなん場所のひょうしき



▲マイひなんカード



「最低でも3日分、できれば1週間分の備蓄があればいいと聞いたことがあるよ。」



「電話やメールができなくなるので、災害用伝言ダイヤルでれんらくしようとして家族で決めているよ。」



「災害が起きたときは、市のひなん場所になっている学校に集まることになっているよ。」



「加東市では、マイひなんカードも作っているから、備えておくといいね。」



▲災害用伝言ダイヤル

災害用伝言ダイヤル

大きな災害のときは、電話がかかりにくくなります。番号171に電話をかけることで、伝言を残しておくことができます。

ことば

自助 自分や家族の命を守るために、自分や家族で防災に取り組むことです。自然災害が起きた際、命を守るために最も大切なことです。

見方・考え方

家で行っているくふうを、風水害が起きる前のものと、起きた後のものに分類してみよう。

めあて

風水害からくらしを守るための、家庭や学校、市や地いき住民の取り組みについてまとめましょう。

まなびのポイント

自分や家、学校、地いき、市の取り組みについて、考えたことを書いてみよう。

それぞれの取り組みについて、整理したことをくらべてみよう。

●風水害からくらしを守る取り組み

はやとさんたちは、これまでの学習を生かし、学習問題について考えたことをカードにまとめることにしました。



「まずは、自分の身は自分で守ることが大切だね。ふだんから家族で話し合っておくことも大事だね。」



「自分の身を守った後は、ご近所どうしの助け合いが大切になってくるよ。ご近所にだれが住んでいるかを知っておく必要があるね。」



「大きな災害のときは、市や県、国が協力して対応するんだね。」



▲加東市ハザードマップの冊子



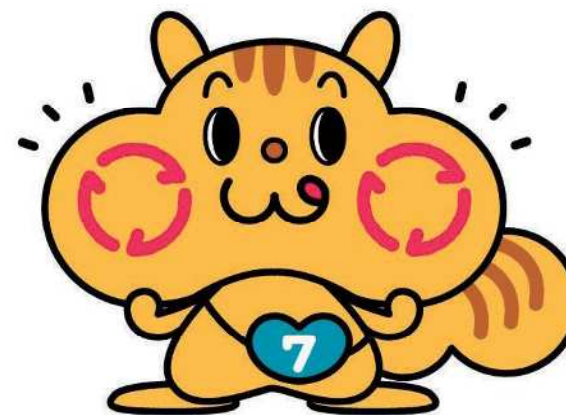
▲人と防災未来センター（神戸市）

風水害からくらしを守る取り組み

<p>自助 自分の身は自分で守る</p>	
<p>共助 学校や地いきで助け合う</p>	
<p>公助 市や県、国などによる助け</p>	



「市や県のホームページや関係施設で、災害や防災について正しい情報を知っておくことも大切だね。」



▲「ひょうご備蓄キャンペーン」マスコットキャラクター「びちっく」

- 「ことば」をいかそう
- 自然災害 ○自助
 - 共助
 - ハザードマップ
 - 公助 ○防災計画

見方・考え方

「自助、共助、公助」のそれぞれの役わりをくらべながら考えてみよう。

4

きょう土の伝統・文化と先人たち

残したいもの 伝えたいもの

めあて

加東市にある古くから残るものを出し合って、学習問題をつくりましょう。



▲播州清水寺



▲閼竜灘



▲佐保神社秋祭り

●加東市の伝統・文化

りささんたちは、校外学習で加東遺産巡りをする事になり、話し合っています。

「播州清水寺は平安時代から有名な場所だったそうです。」

「社地域の佐保神社の秋祭りは、たくさんの方が見に来ていました。」



▲光明寺



▲朝光寺



▲上鴨川住吉神社



▲安国寺

調べること (グループごとに1つ選び、調べましょう。)

- ・古くから残る建物
- ・古くから続く祭り
- ・古くから伝わる芸のう など

調べ方

- ・実際に見学に行く。
- ・図書室やインターネットで調べる。
- ・祭りやほぞん会を運いしている人に話を聞く。

まとめ方

- ・古くから残るさまざまなものを年表にまとめる。

学習問題

加東市にある古くから残るものには、どのような願いがこめられ、どのように受けつがれてきたのでしょうか。

まなびのポイント

加東市に古くから残るものを見つけて、発表し合おう。

学習問題をつくり、学習計画を立てよう。

見方・考え方

それぞれの古いものは、加東市内のどこにあるのかな。



▲明治時代から現在までの播州清水寺根本中堂



▲大正時代の参道
2kmの道のりを歩いて登っていた。

▲自動車で登れる参道

年	主なできごと
627年	根本中堂が建つ。
725年	大講堂が建つ。
	再三の火災にあい、そのたびに再建される。
1913(大正2)年	山火事ですべての建物が焼ける。
1917(大正6)年	大講堂と根本中堂が再建される。
1975(昭和50)年	自動車道路ができる。
1999(平成11)年	国の登録有形文化ざいに選ばれる。
2019(令和元)年	日本遺産に認定される。

▲播州清水寺に関する年表

めあて
播州清水寺は、どのようにして残されてきたのでしょうか。

まなびのポイント
古くから残る建物を見学したり、聞き取りをしたりして調べよう。
写真やメモなどをもとに、わかったことをノートに整理しよう。

● **古くから残る加東市の建物**
「播州清水寺」
りささんたちは、加東市にある清水寺について、調べてみることにしました。

- 「1400年くらい前にできたとても古いお寺らしいよ。」
- 「山の上にこんなにっぱな建物をたてるなんてたいへんだっただろうな。」
- 「建物を守っていくために、どのようなことをしているのかな。」

清水寺住職の話

清水寺は、古くから市民のみなさんに愛され続けています。また、西国巡礼の札所になっているので、市内だけでなく全国から毎年10万人をこえる人に参拝していただいています。おかげで今もりっぱなお寺を続けることができます。

これまでに何度も火事で建物が焼けてしまい、そのたびに建て直してきました。そのため火のあついには十分注意しています。これからも大切に受けついでいきたいですね。

ことば
文化ざい 地いきには、古い建物や美術品、習わしなど、人々が大切に伝えてきた文化財が残されています。その中には、国、県、市などがしっかりとほぞんしていくことを決めたものもあります。

見方・考え方
播州清水寺は、どのように守られてきたのかな。



▲秋津百石踊



▲秋津百石踊の練習



▲秋津百石踊動画



▲百石踊保存会資料

めあて

古くから伝わる芸のうは、どのように受けつがれてきたのでしょうか。

まなびのポイント

かとう学で、加東市内に伝わるお祭りについても調べてみよう。

きょう土芸のうのほぞん会の人などにも話を聞いてみよう。

●古くから^{つた}伝わる加東市の芸のう

りささんたちは、加東市の「^{ひゃっこくおどり}百石踊」の中で、^{とうじょう}東条地域の^{さいど}西戸に伝わる「秋津百石踊」について調べてみることにしました。



「400年ほど前から行われているみたいだよ。」



「たくさんの人がおどり手として参加しているんだね。」



「どのような気持ちでおどっているのかな。」

秋津百石踊のしょうかい

秋津百石踊は、今から約400年ほど前に雨ごいおどりとして始まったといわれています。雨をえて、少しでも米をしゅうかくできるよう村をあげておどっていました。

おどりに参加できるのは、男子にかぎられ、家の長男だけとされていました。昔は、すべて男性でおどっていましたが、現在では、女性も参加するようになり、時代に合わせてじゅうなんに受けついでいます。

おどりは、いりはおどり、しのびおどり、大雨おどり、をぐらおどり、みやこおどり、こうたおどりの6つをじゅんにおどります。



▲使用する道具や楽器

ほぞん会の方の話



ここでは、西戸出身の人たちがおどります。毎年3月から週に1回、2か月くらい練習します。おどりは^{くでん}口伝で伝わってきました。昭和36年にほぞん会を立ちあげました。昭和51年には、兵庫県指定重要無形民俗文化財の保持団体として認定されました。おどりは、雨ごいが必要な年におどっていましたが、平成23年から毎年、おどっています。西戸地区へ伝わる踊りを次世代へ残したい、守りたいという思いからです。長く続いてきたものを守ることができ、たくさんのひとに見てもらえた時がうれしいです。

ことば

きょう土芸のう きょう土芸のうには、いわれがあります。歌やおどりの一つ一つに意味があり、受けついできた人たちの思いや願いがこめられています。

見方・考え方

秋津百石踊は、どのように受けつがれてきたのかな。



▲四台練りの様子

めあて

佐保神社の祭りは、どのようにして続けられてきたのでしょうか。

まなびのポイント

図書室やインターネットで、佐保神社の祭りのえいぞう資料をさがしてみよう。

なぜその祭りを続けているのかを関係者に聞いてみよう。

●古くから残る加東市の祭り

「佐保神社の秋祭り」

りささんたちは、佐保神社の秋祭りについて調べてみることにしました。



「北播三大祭りの一つと言われているよ。」



「4台の太鼓屋台が集まっていて、とても迫力があるね。」



「子どもがかつぐお神輿があるんだね。」



「なぜ長い間、大切に続けられてきたのかな。」



▲宮入りの様子

上組の藤本百男さんのお話



祭りは地域の元気の源。昔からずっとしている佐保神社のお祭りにわたしも小さい時から参加してきました。祭りに参加すると、ベテランも若い人も集まり、素晴らしい祭りが伝承されていきます。

社会の変化とともに、変わっていていることはあるけれども、根本は変わらない。大門の獅子舞は子どもがしているし、上組の太鼓の指導も子どもの時から指導されて、同じリズムでずっと歌えるようになります。こうやって、小さい時から体でやって、体で覚えていく。これが、一番大事なことだと思います。「祭りは面白い。」小さい時から参加して、その面白さを感じてほしいです。



「ぼくは、小さい時からお父さんにさそわれて、太鼓の練習に参加しています。佐保の秋祭りがこれからも続いていくように、大きくなっても参加したいです。」



▲子どもお神輿



▲獅子舞

秋祭りの意味

「屋台は地域の誇り」と語る人がいます。年に一度、担ぎ手とそれを見守る人々が、一台の屋台を中心に、地域の誇りを感じます。佐保の秋祭りを通して、地域同士の連帯感が強まります。大切にしたい一日です。

見方・考え方

佐保神社の秋祭りには、どのような願いがこめられているのかな。

2 とうじょうがわ そすい 東条川疏水と わたしたち

めあて

加東市の今と昔の様子をくらべて、学習問題をつくりましょう。





▲酒米「山田錦」(加東市HPから引用)




●加東市の水田をうるおす 「東条川疏水」

けんたさんたちは、加東市の今と昔の様子を話し合いました。

 「加東市は山田錦にしきをたくさん作っていて、夏になると田がとてもきれいだね。」

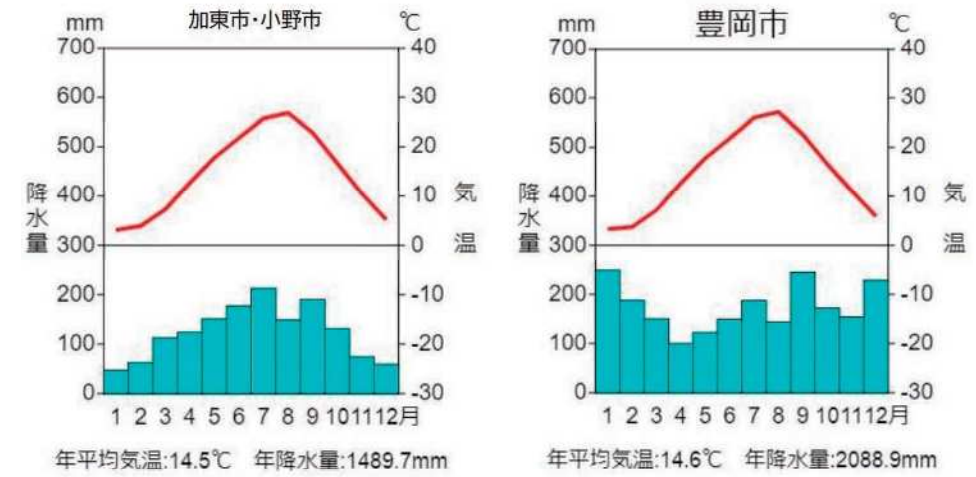
 「でもおばあちゃんに聞いたけれど、昔は水不足みずぶそくになやんでいたらしいよ。」

 「1924(大正13)年たいしゅうにまったく雨が降らずに、お米が作れなくて、大きなひがいがあったと本で読んだことがあるよ。」

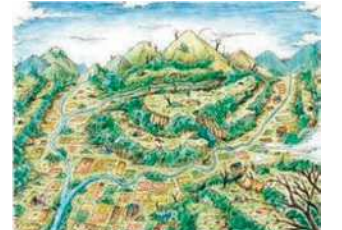
まなびのポイント

『遠い水の路』を読んで、気づいたことを話し合おう。

学習問題をつくり、学習計画を立てよう。



▲加東市・小野市と豊岡市の気温と降水量
(雨温図作成サイトで作成)



▲1924年の加東市・小野市の様子

調べること

- ・田の水はどこから来ているのか。
- ・東条川疏水は、どのようにしてつくられたのか。
- ・広いはんに水をどけるために、どのようにくふうがされているのか。
- ・東条川疏水は今、どうなっているのか。

調べ方

- ・見学に行って調べる。
- ・図書館に行って調べる。
- ・インターネットで調べる。
- ・東条川疏水に詳しい人に聞いて調べる。

まとめ方

- ・調べたことをポスターにまとめる。

学習問題

1924(大正13)年に加東市では雨が降らずに大きなひがいを受けてきたのに、なぜ今は米作りに必要な水があるのだろうか。



▲田に水が入っている様子



▲水路を流れる水



▲川を流れる水



▲ため池(昭和池)の水

めあて

加東市にある田の水は、どこから来ているのでしょうか。



まなびのポイント

田の水がどこから来ているか、予想しよう。

田の水がどこから来ているか、調べてみよう。

●田の水はどこから

けんたさんたちは、田の水はどこから来ているか、話し合いました。



「『水はどこから』の学習の時にように、じょう水場のようなところから水が来ているのではないかな。」



「たしかに、学校から帰るときに、水路から田んぼへ水が入っているのを見たことがあるよ。」



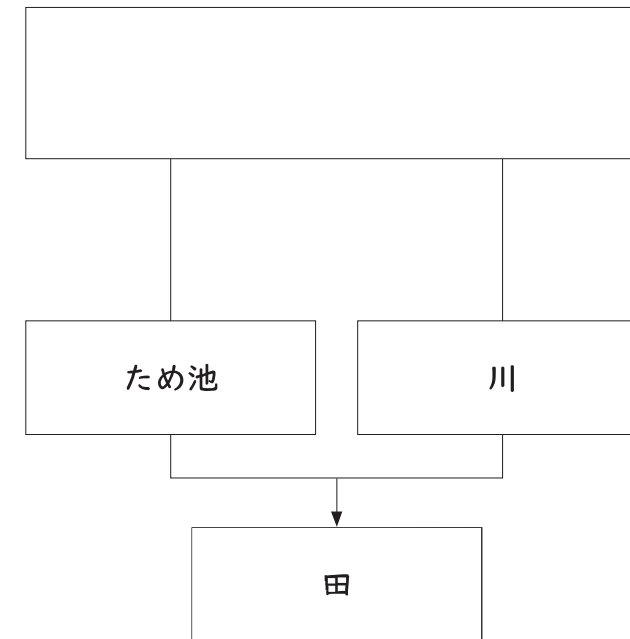
「その水路の水はどこから来ているのかな。」



「^{じっさい}実際に見に行ってみよう。たしかめてみたいな。」

問

加東市にある田の水は、どこから来ているのか予想してみよう。



水は高いところから低いところへ流れるね。



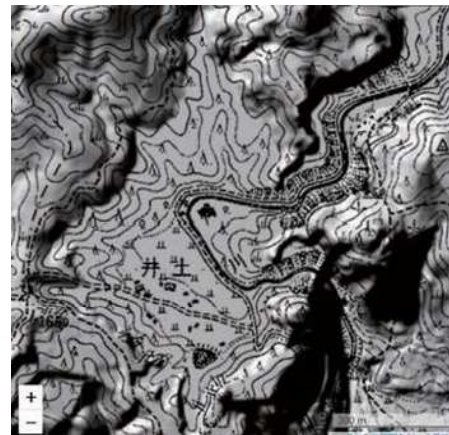
安全に気をつけて、見学しないといけな

見方・考え方

加東市の田の水は、どこから来ているのでしょうか。また、どのようにして来ているのでしょうか。



▲土井村全景



▲土井村の地形(今昔マップonthewebから引用)



▲昭和池

めあて

なぜ土井村にダムがつくられたのだろうか？



▲鴨川ダム

●湖底に眠る土井村

昔から加東市をふくむ北播磨地いきでは、大きな日照りがたびたびあり、水不足になやんでいました。しかし、1924(大正13)年の日照りは、これまでにない大きなひがいがありました。この時のひがいをきっかけに、加東郡福田村の井上萬司さんを中心に上福田・加茂・社・福田の地いきがまとまって、国や県にため池をつくるように何度もお願いをしました。そのけっか、三草山のふもとをせき止めて1928(昭和3)年から工事が始まり、大きな昭和池が完成しました。昭和池が完成したことで、人々の水不足への心配は少なくなりました。



加古川
▲加古川から東条湖の断面図
(国土地理院地図より)

年号	できごと	年号	できごと
江戸時代以前	●安政池築造始まる(～1858)。	昭和24年	●鴨川ダムの築造始まる。
大正13年	●全県下に記録的な大干ばつ。特に播磨地域の被害が大きかった。 ●収穫がほとんどできなかった。	昭和26年	●鴨川ダム完成。
大正末期	●近藤準吉「天恵の地形。土井はため池になる」。	昭和34年	●船木池完成。
昭和3年	●昭和池築造に着手。	昭和38年	●現在の安政池完成
昭和8年	●昭和池完成。	昭和39年	●播磨地域干ばつ
昭和14年	●播磨地域大干ばつ。	昭和48年	●播磨地域干ばつ
昭和16年	●太平洋戦争に突入。	昭和53年	●播磨地域干ばつ
昭和20年	●戦争が終わる。食糧不足になる。 ●播磨地域大干ばつ。	平成6年	●大干ばつで鴨川ダムの水が枯渇し、干ばつ被害が発生

▲東条川疏水年表

小野市市場村の近藤準吉さんは、これまでの日照りの経験から何よりも大きなため池をつくる必要だと考えていました。ある時、土井の谷を見て、「天恵の地形 土井は池になる」と言ったそうです。1945(昭和20)年になり、日本が戦争で負け、国をあげて食料を増やさなければならず、新しくダムを作る必要がありました。そして、周囲が山にかこまれた典型的な盆地の地形で川をせき止めるだけでダムをつくることができ、高位段丘面にあるため広く水を送るのにてきた土井がよいということになり、土井村がダムでしずむことになりました。そして、1951(昭和26)年、工事を始めてからわずか2年で貯水量8,380,000トンの鴨川ダムが完成しました。



どうして土井村にダムがつくられることになったのだろうか。



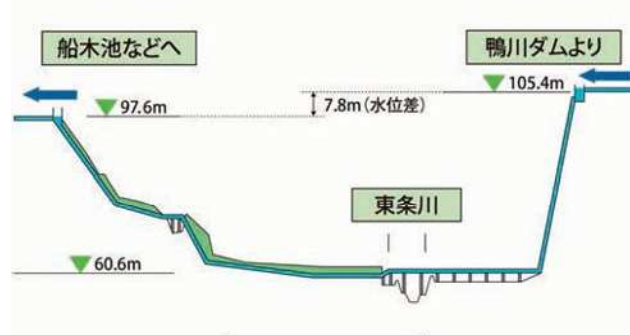
土井村に住んでおられた人は、どのような思いだったのだろうか。

見方・考え方

なぜ土井村にダムがつくられることになったのだろうか。



▲鴨川ダムから河合西駅の断面図



▲松沢の谷を水がこえるためのしせつ



▲曾根サイフォン



▲六ヶ井円筒分水

めあて

鴨川ダムの水は、どのように、送られているのだろう。



まなびのポイント

どのようにして、水が谷をこえているのか、調べよう。

水をたくさんの人にとどけるために、どのようなしせつがつけられているのか調べよう。

●東条川疏水のすぐれたたしせつ

けんたさんたちは、鴨川ダムの水は、水路を通して、加東市、小野市の全いきにとどけられていることを知って、ふしぎに思うことを話し合っていました。

- 「地図を見ていると、加東市の東の方は、山が多くて谷があるよ。」
- 「水は上から下に落ちるけれど、谷に水がたまらないのかな。」
- 「何か特別なくふうをしているのではないかな。その他にも水を送るためのくふうがありそうだね。」

まず、せまい谷は、橋をかけて水が流れるようにしています。一方、広い谷は、曾根サイフォンをつくり、逆サイフォンの原理を使って、約1000mもある谷をこえています。

また、小野市には、六ヶ井円筒分水があります。もともとの水路では背割り分水という分水方式を活用していましたが、水量はつねに変化するため、水を公平に分けることが不可能でした。しかし、円筒分水をつくることで流れてくる水量によらず、水を公平に分けることができるようになりました。

デジタルコンテンツ



▲谷をこえる様子



▲3D曾根サイフォン



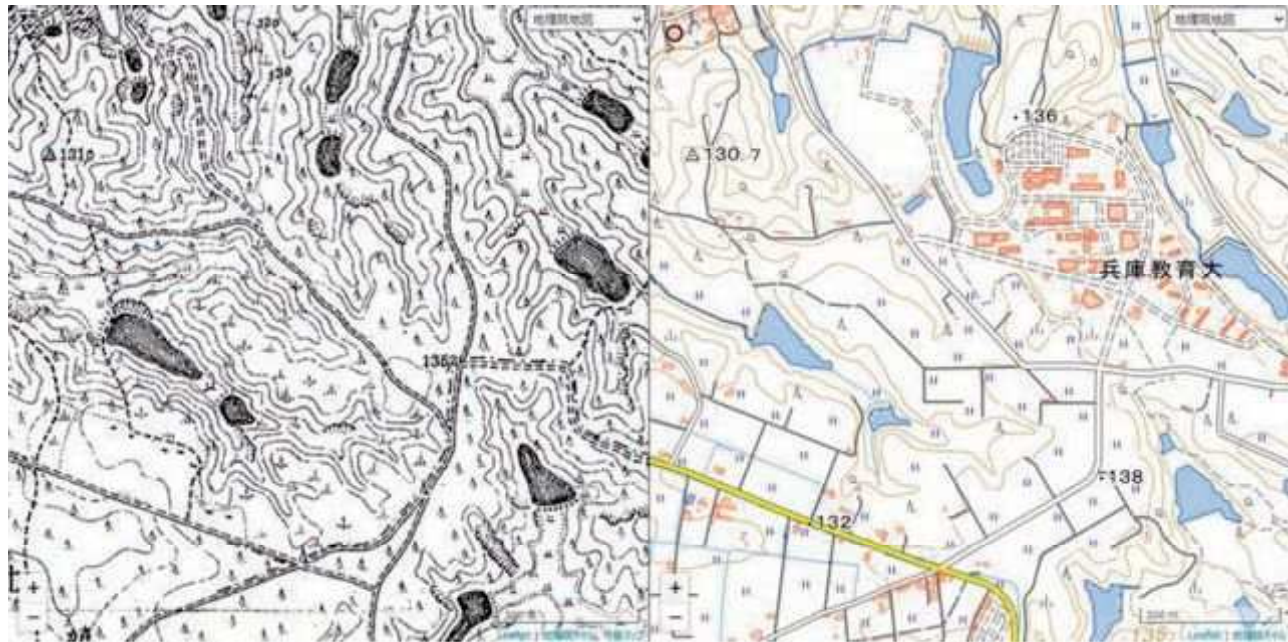
▲逆サイフォンの仕組み



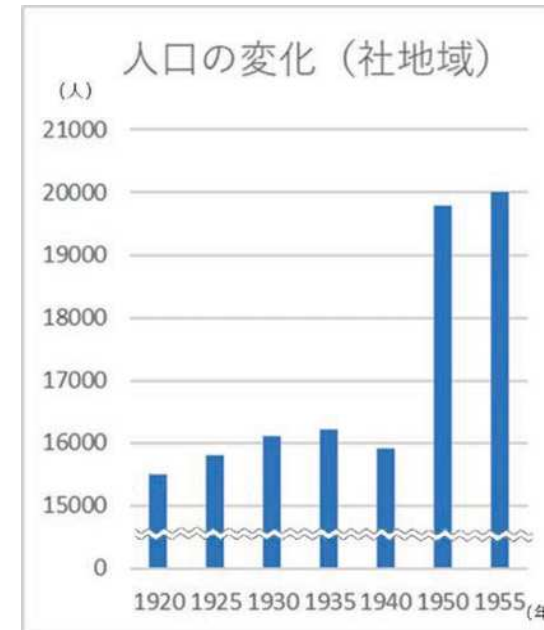
▲六ヶ井円筒分水の仕組み

見方・考え方

水を広いはんにとどけるために、どのようなくふうがされているのだろう。



▲1903～1910年ごろ(左)と今(右)の兵庫教育大学付近の地図



▲社地いきの人口の変化

年	出来事
1937年	日中戦争が起こった。
1941年	太平洋戦争が起こった。
1945年	太平洋戦争が終わった。 海外からの引揚開始。 食糧不足が深刻になる。
1946年	日本人引揚者630万人のうち、約90%の引揚が完了。
1951年	鴨川ダムが完成。
1958年	引揚終了。

▲戦争に関する主な出来事

めあて

鴨川ダムができたことで、人々の生活はどのように変わったのだろうか。



▲受益地と開拓地

まなびのポイント

資料をもとに人々のくらしの変化を調べよう。

●東条川疏水とわたしたちのくらし



「1951(昭和26)年に鴨川ダムができたことで、地いきはどのように変わったのかな。」

りささんたちは、学校やまちの図書館で資料を集め、人々のくらしの変化について調べてみました。



「現在、兵庫教育大学のあるところを地図で見くらべてみると、田がたくさんふえたことがわかるね。」



「お米ができて、食りよう不足になる心配もきっと少なくなっただろうね。」

1940(昭和15)年と1950(昭和20)年をくらべると、社地いきの人口は約4000人もふえました。

太平洋戦争が終わると、海外で生活していた人や兵隊として外国へ行っていた人たちが、日本へ帰ってきました(引揚)。これにより、社地いきの人口がふえました。

鴨川ダムができ、東条川疏水が整備されたことにより、干ばつによるひがいが少なくなりました。これにより、お米が作れるようになり、農業生産が安定するようになりました。

もっと知ろう



引揚について、もっと調べてみたいな。

見方・考え方

東条川疏水ができる前と後で、どのようなちがひがあるかな。



▲現在の東条川疏水の様子

めあて

なぜ、たくさんのお金をかけてダムやため池、水路を改修するのだろうか。

まなびのポイント

このまま改修せずに放っておくとどうなるだろう。

どのようにして、東条川疏水を未来に残そうとしているのだろう。

●未来につなぐ東条川疏水

東条川疏水ができたことで、農業生産が安定しました。しかし、鴨川ダムが完成してから70年以上たつなど、整備から長い年月をへて、各所で施設の劣化やコンクリートにひびわれなどが発生しています。



「テレビのニュースで見たけれど、2022(令和4)年に愛知県の明治用水で水がもれて、工業用水が止まるかもしれない事故があったそうだよ。」



「東条川疏水は、農業用水や生活用水にも使われているから、同じようなことにならないか心配だね。」



▲溝普請の様子(上田地区)

国の整備計画では12年間140億円をかけてそれぞれのしせつの耐震化、長寿命化対策が行われています。

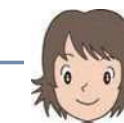
事業所で働く人の話



事業の計画では、鴨川ダム、安政池、船木池の3か所で盛土をするなどの耐震化や、昭和池など5つのため池の地震対策工事をします。用水路も計14.6kmを改修し、曾根サイフォンも新しいものに取りかえます。わたしたちの宝である東条川疏水を次の世代につなげるようにがんばっています。



溝普請は、地いきの人が協力して、田んぼに引き入れる溝や水路のそうじをすることです。底のどろをすくい取ったり、雑草を引きぬいたり、かたたりして水の通りをよくします。加東市の多くの地いきで、溝普請が行われています。



とてもたいへんそうだけれど、どうして加東市の多くの地いきでされているのかな？

見方・考え方

未来に東条川疏水を残していくために大切なことは何だろう。

めあて

東条川疏水のすごさを地いきの人にしようかいするポスターにまとめましょう。

● 東条川疏水を地いきの人にしようかいしよう

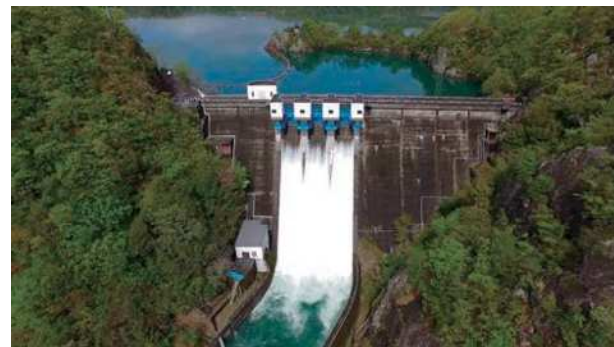
りささんたちは、学習問題について調べていくなかで、地いきの人にも東条川疏水があまり知られていないことを知りました。そこで、東条川疏水の「すごさ」について地いきの人にポスターにまとめることにしました。



「土井村の人たちのけつだんがあったから、今、わたしたちが水にこまらずに生活することができているんだね。」



「東条川疏水は、今も、地いきの人々によって大切に守られているんだね。」



▲鴨川ダム

まなびのポイント

学習問題について話し合おう。

話し合ったことをもとに、ポスターをつくろう。

学習したことをふり返り、東条川疏水の「すごさ」を地いきの人にしようかいするポスターを作ろう。



▲「地いきの人にしようかいしよう！東条川疏水ポスター」

5

特色ある地いきと 人々の暮らし

1
丹波焼をつくるまち
丹波篠山市今田町

めあて
写真や資料から、気づいたことを話し合い、学習問題をつくりましょう。



▲丹波焼

● 850年のれきしがある丹波焼
兵庫県には、地いきによって産業や文化にちがいががあります。さくらさんは、県内の特色ある地いきについて調べてみることにしました。

「丹波篠山市今田町にはたくさんのかま元があるらしいよ。日本六古窯の一つだって。」

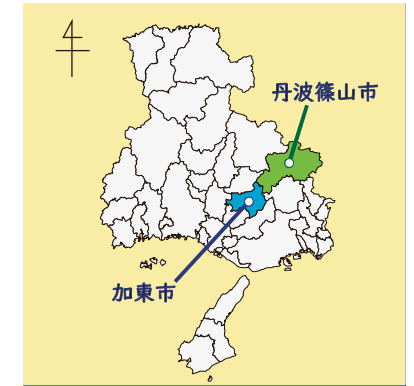
「どうして焼き物が丹波篠山市でつくられているのだろう。どうやってつくっているのかな。」

かま元
焼き物をつくっている場所や人のことです。

日本六古窯
古くから現在まで生産が続く六つの陶磁器窯。



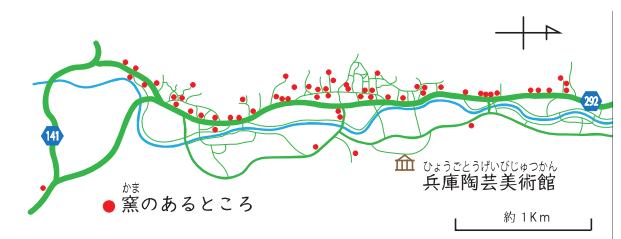
▲空から見た今田町



▲丹波篠山市の位置



▲丹波伝統工芸公園「立杭陶の郷」



調べること

- ・焼き物づくりがさかんになったわけ。
- ・焼き物づくりを守り、伝える人々の取り組み。

調べ方

- ・パンフレットやインターネットで調べる。
- ・組合の人や職人さんに、インタビューをしたり、メールなどでたずねたりする。

まとめ方

- ・丹波篠山市の焼き物づくりを守り伝える取り組みについて画用紙4枚にまとめ、4コマCMをつくる。

学習問題

丹波篠山市では、丹波焼をどのように守り、伝えているのでしょうか。

まなびのポイント

写真や資料などから、気づいたことを話し合おう。

学習問題をつくり、学習計画を立てよう。



▲現存する最古の登りがま



▲採土場



▲土に水をまぜて不純物を取りのぞく



1 土をねって空気をぬく



2 形をつくる



3 けずって形をつくる



4 かんそうする



5 すやきをする



6 うわ薬をかける

▲丹波焼ができるまで

めあて

丹波焼は、どのようにつくられているのでしょうか。

原料

伝統的な産業では、地元で手に入る原料を生かしてものづくりをしていることが多く見られます。

まなびのポイント

原料はどこから手に入るのか調べよう。

焼き物ができるまでの工程を調べよう。

●丹波焼をつくる

丹波焼は、平安時代(約850年前)に始まったとされています。約400年前に朝鮮半島から登りがまが伝わり、それまでのかまより短い時間で、たくさんの焼き物がつくれるようになり全国に広まりました。

丹波焼の原料になる土は、山土と田土をまぜたものです。昔は、地元でとれる土を使っていました。今は、市内の少しはなれたところの田土や、となりの三田市でとれる山土をまぜ合わせて使っています。

焼くときの燃料になる木が手に入りやすいかどうか、焼き物づくりでは、とても大切です。山に囲まれた丹波篠山市今田町には、燃料に使う木がたくさんあり、水も豊富で、焼き物づくりにとても役立ちました。

丹波焼をつくる市野さんの話



陶芸の学校に通ったり父親を手伝ったりして作り方を学びました。食器を作ることが多いので、重さやはだざわりなど、使い心地のいいものを作ろうと努力しています。かまに入れて焼いている間は作品が見えないので、一番きんちょうします。思った通りに仕上がるとうれしいですね。850年続いているので、これから先も何百年続いてほしいです。そのために、若い人が受け継ぎやすいような仕組みを考えています。



7 本焼き
最近はガスがまや電気がまで焼くことが多い

見方・考え方

焼き物づくりは、いつごろから始まったのかな。



▲カラフルな丹波焼



▲多くの人でにぎわう
陶器まつり



▲かま元横丁



▲陶芸教室

めあて

丹波篠山市今田町では、丹波焼を未来へつなげるために、どのような取り組みをしているのでしょうか。

●未来へつなげる焼き物づくり

昭和時代の初め、生活の苦しさや、戦争などによって、かま元が30けんまで減る大変な時期がありました。

しかし、1978(昭和53)年には国の伝統的工艺品に指定され、1985(昭和60)年には「立杭陶の郷」が開園、2005(平成17)年には「兵庫陶芸美術館」が開館しました。今では新しい作家もふえ、50軒以上のかま元があります。

丹波焼は、850年の間、大きなつぼや湯のみ、皿などの生活用器を主体に焼き続けています。最近では、デザイン、色合い、形などにくふうした作品もつくられています。

まなびのポイント

伝統的な産業を守ろうとする取り組みについて調べよう。

「立杭陶の郷」館長さんの話



丹波伝統工芸公園「立杭陶の郷」は、丹波焼を広く知ってもらうためにつくられたしせつで、毎年約10万人のお客様が来られています。かま元横丁では、約50けんのかま元の焼き物が展示販売されています。ねんど細工や絵付けを体験できる陶芸教室も開かれています。

毎年10月には、「陶器まつり」が開かれ、全国から焼き物を求める人が集まり、立杭のまちがたいへんにぎわいます。

みなさんもぜひ丹波篠山市今田町に立ちより、丹波焼にふれてみてください。



▲立杭陶の郷ホームページ

見方・考え方

人々は、焼き物づくりを守るために、どのように協力したのかな。

2

国際交流に 取り組むまち 加東市

つかむ

写真や資料から、気づいたことを話し合い、学習問題をつくりましょう。



▲国際交流フリーマーケット

●外国とのつながりが深い加東市

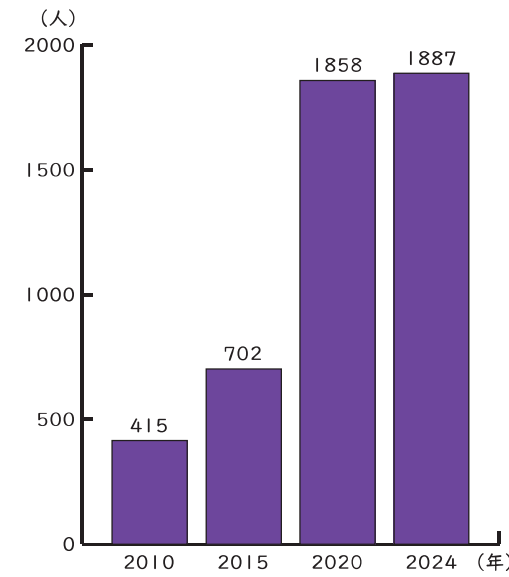
あゆむさんたちは、加東市国際交流協会のウェブサイトで、交流の様子の写真を見て気づいたことを話し合いました。

「さまざまな国の人たちが参加して楽しそうだね。」

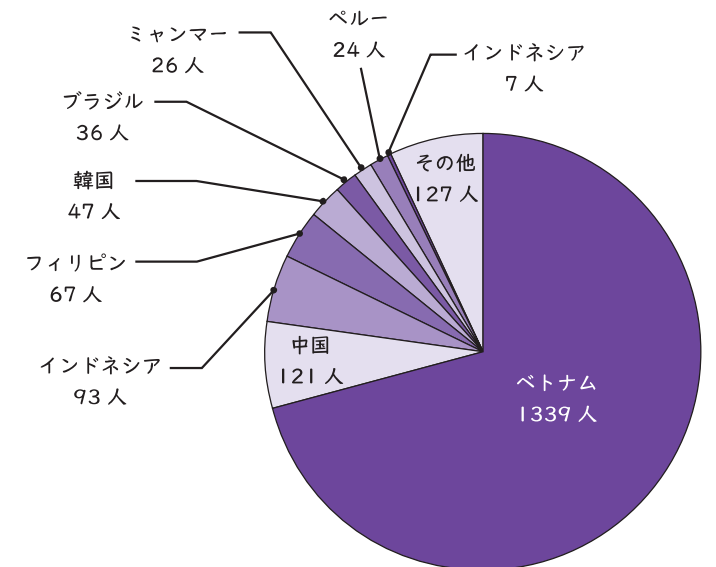
「加東市のお店を歩いていると、外国人とよくすれちがうよ。」

「加東市には、どのくらいの外国人の人が住んでいるのかな。」

あゆむさんたちは、加東市に住んでいる外国人の人数や変化を調べました。



▲加東市に住む外国人の数



▲加東市に住む外国人の国別人数(令和6年)



「グラフを見ると、加東市に住む外国の人の数がふえているね。市の人口の約22人に1人は外国の人だよ。」



「なぜ、加東市には外国の人が多く住んでいるのかな。」



「加東市は、ほかに外国とどのような交流をしているのかな。」

あゆむさんたちは、話し合ったことをもとに、学習問題をつくりました。

学習問題

加東市では、外国人の人々とどのような交流をし、共にくらすためにどのようなまちづくりをしているのでしょうか。

調べること

- ・加東市の交流の取り組み
- ・地いきの人々の取り組み

調べ方

- ・インターネットで加東市のホームページを見る。
- ・市の人や地いきの人に、話を聞く。

まとめ方

- ・加東市の交流の様子について、4コマCMをつくる。

まなびのポイント

写真や資料などから、気づいたことを話し合おう。

学習問題をつくり、学習計画をたてよう。

めあて

加東市は、どのような国際交流をしているのでしょうか。

まなびのポイント

写真や資料などから気づいたことを話し合おう。

加東市の姉妹都市交流などの取り組みを調べよう。



▲加東市の姉妹都市



▲オリンピア市のみなさんと

●国際交流の取り組み

あゆむさんたちは、加東市と交流している都市について、地図や写真を見て話し合いました。



「加東市は今、アメリカの3つの都市と姉妹都市の関係を結び、文化やスポーツを通じた交流をしているんだね。」



「オリンピア市とは、お互いに留学生が行き来しているそうだよ。」

りささんたちは、市役所で国際交流の取り組みについて、話を聞きました。

ことば

国際交流 加東市は、外国の都市と親しくつき合う姉妹都市関係などを結び、様々な交流を行っています。子どもたちがおたがいの国(都市)をおとずれて、直せつ外国の文化にふれ合う活動も行っています。

市役所の方の話



中学生がオリンピア市に行ったり、加東市に来てもらったりして、おたがいの文化を知る活動をしています。2020(令和2)年には姉妹都市となって40周年だったため、2023(令和5)年にオリンピア市長を加東市に招いて、調印式を行いました。

見方・考え方

日本人と外国人住民は、どのようにして力を合わせたらよいのかな。

ことば

姉妹都市 文化交流や友好親善を目的として交流を深める関係の都市のこと。

あゆむさんたちは、加東市で外国の人がくらしやすいように行っている取り組みを調べることにしました。



▲生活ガイドブック



▲外国語で書かれた案内表示



▲交流イベント



▲日本語教室

めあて

市は、外国人住民がくらしやすいように、どのような取り組みをしているのでしょうか。

●だれもが安心してくらしをさせるまちを目指して
加東市役所は、外国の人が安心してくらすための取り組みをしています。

まなびのポイント

市役所の取り組みを調べよう。

加東市国際交流協会の取り組みを調べよう。

市役所の方の話



加東市では、外国から移住してきた方が安心してくらすための取り組みを行っています。たとえば、税金やごみのすて方など日常生活に必要なことが書かれている「生活ガイドブック」を発行しています。日本語だけでなく、英語・中国語・ベトナム語・ポルトガル語・スペイン語・インドネシア語・フランス語・ミャンマー語の全9か国語で書かれたものを用意しています。そのほかにも、外国人相談窓口では、外国の人が生活の中で困ったことがあるときに、中国語とベトナム語を話すことができる相談員が対応しています。

共にくらす

おたがいの文化的なちがいをみとめ合い、地いき社会の中で対等な立場でくらすことです。



「市役所では、外国から移住した人が生活に困らないように支援しているんだね。」



「他に支援しているところはないのかな。」



「国際交流協会というのがあるのを聞いたことがあるよ。」

加東市国際交流協会の方の話

加東市国際交流協会は、2007(平成19)年に設立されました。加東市国際交流協会では、姉妹都市との交換留学や、日本語教室の開講、兵庫教育大学の留学生と加東市に住む家庭との交流など、外国の人と交流する活動を進めています。交流を通して、それぞれの国のちがいやよさを知ることができます。



「おたがいにとってくらしやすいまちづくりには、理解し合うことが大切なんだね。他の市ではどんな取り組みをしているんだろう。」

ことば

留学生 学問や日本の文化などを学ぶために、外国から日本に来ている外国人の学生の事です。



ひろげる
神戸市ではどのような国際交流をしているのだろう。

▲神戸市の姉妹都市・親善協力都市

●神戸市の国際交流の取り組み

あゆむさんたちは、神戸市の国際交流の取り組みについて調べてみました。



▲姉妹都市拡大図



▲神戸市に住む外国人の数



▲神戸市に住む外国人の国籍人数

- 「神戸市は今、10の都市と交流しているんだね。」
- 「加東市より多くの都市と交流しているね。」
- 「グラフを見ると、神戸市に住む外国人がすごくふえていることが分かるよ。」
- 「いろいろな国の人とともにくらしているんだね。」



▲コウベ・インターナショナル・クラブの様子

神戸市は、加東市と同じく生活支援や日本語教室、留学生支援、外国人同士や日本人との交流イベントをおこなっています。また、「コウベ・インターナショナル・クラブ」といって、神戸市のことを知る外国人に神戸のみりよくを発信してもらい、海外と神戸をつなぐ取り組みをしています。

- 「神戸市もたくさんの国と交流をしているんだね。」
- 「誰にとってもくらしやすいまちになるように様々な取り組みをしているね。」



▲日本語とベトナム語のパフレット

3

町の資源を 生かすまち 豊岡市

めあて

写真や資料から、気づいたことを話し合い、学習問題をつくりましょう。



▲出石城跡(豊岡市提供)



▲出石城下町のまちなみ



辰鼓楼▶
(豊岡市提供)

●古いまちなみがのこる豊岡市

豊岡市の出石城下町地区や城崎温泉街地区では、歴史的な建物が多く残されています。みさきさんたちは、豊岡市を調べることにしました。



「わたしたちの加東市のまちなみと様子がちがうね。」



「豊岡市は、この景観をどんなふう
に生かしているのかな。」

まなびのポイント

写真や資料などから、気づいたことを話し合おう。

学習問題をつくり、学習計画をたてよう。



▲コウノトリの郷公園



▲豊岡市の位置(豊岡市提供)



▲城崎温泉街地区



▲旧豊岡市役所

調べること

- ・豊岡市のとくちょうを生かしたまちづくりの取り組み

調べ方

- ・パンフレットやインターネットを使って調べる。
- ・市役所の人などにインタビューしたり、メールなどでたずねたりする。

学習問題

豊岡市では、まちの景観や伝統的な文化や自然を生かして、どのようなまちづくりをしているのでしょうか。



◀▼現在の城崎温泉街地区



めあて

豊岡市では、どのようにして景観を守っているのでしょうか。

ことば

景観 景観とは、その土地にどくじの自然や歴史などがつくってきた風景のことです。

まなびのポイント

これまでどのように守られてきたか調べよう。

守り伝える取り組みをしている人々の思いを考えよう。

●歴史ある景観を守る

城崎温泉は、三方を山に囲まれた狭い谷間に位置しています。1300年の歴史をもち、古くから「但馬の湯」として親しまれていました。町の中心を流れる大に川に沿って木造の温泉宿や店が立ち並んでいました。しかし、1925(大正14)年の北但大震災によって大きなひがいを受けてました。泉源に大きなひがいがなかったことから、復興のまちづくりを始めました。



▲北但大震災後の城崎(大正14年)



▲明治時代の城崎温泉街地区の様子

●景観を生かしたまちづくり

あえて近代的な建物にせず、「和」の風情を大事にした歴史と文化を感じさせる景観になっています。また、新しい建物をつくったり、建物の色を変えたりするときなどは、町の景観を守るため市は、景観条例を作成しルールを決めました。



▲城崎温泉駅

ことば

景観条例 都道府県や市町村が、その地域の美しい景観を守るためのきまりのこと。

見方・考え方

(古くから残っているものは、どのくらい前のものかな。)
景観条例のルールはどのようなものがあるのかな。



▲芸術文化観光専門職大学



▲近畿最古の芝居小屋「出石永楽館」
(豊岡市提供)



▲城崎国際アートセンター (KIAC)
©西山円茄



▲豊岡演劇祭@トモカネアヤカさん提供

めあて

演劇を生かして、どのようなまちづくりが行われているのでしょうか。

●演劇を生かしたまちづくり

2021(令和3)年に芸術文化観光専門職大学ができました。全国から演劇を学びたい人々が集まっています。また、日本国内だけでなく、海外からも演劇を学びたい人々が集まってきています。

出石地域には、明治時代に建てられた兵庫県指定文化財の「出石永楽館」があります。近畿最古の芝居小屋で、有名な映画のロケ地にもなりました。毎年、有名な歌舞伎俳優の方が来られて、歌舞伎公演が開催されています。歌舞伎だけでなく、落語、神楽等の伝統芸能のほか、様々な演奏会なども行われ、たくさんの方の来場者でにぎわっています。

まなびのポイント

演劇を生かした取り組みについて話し合おう。

演劇を生かしたまちづくりに取り組む人々の協力について考えよう。

また、毎年9月には「豊岡演劇祭」が行われます。この祭りは、劇場だけでなく温泉街、海岸、高原、神社の境内など町のいたるところが舞台になるのが大きな特徴です。日本全国からボランティアサポーターとして高校生から60代の方まで参加し、みんなで祭りをもり上げています。



見方・考え方

祭りは、このまちでいつごろから続いているのかな。

豊岡市役所の人のお話



2014(平成26)年に開館した、城崎国際アートセンターは、アーティストが城崎のまちにくらすように滞在し、創作に集中することのできる施設として高い評価を受けています。豊岡市では、アーティストやクリエイターに移住してもらうことに取り組んでいます。多様性を受け入れ、支え合う「小さな世界都市」づくりを目指しています。



▲コウノトリ

年	できごと
1965 (昭和40年)	・ ぜつめつ前のコウノトリをほごし、人工飼育を始める。
1971 (昭和46年)	・ コウノトリがぜつめつする。
1985 (昭和60年)	・ ロシア(当時のソビエト連邦)から6羽のコウノトリをゆずり受ける。
1989 (平成元年)	・ 人工飼育ではじめてヒナが生まれる。
1992 (平成4年)	・ コウノトリを野生に帰す計画が始まる。
2005 (平成17年)	・ コウノトリ5羽を自然放鳥する。
2025 (令和7年)	・ 兵庫県立コウノトリの郷公園は、コウノトリの野外の生息数が500羽を超えたことを発表した。

▲コウノトリを自然にかえす取り組み

まなびのポイント

豊岡市では、どのようにしてコウノトリをよみがえらせたのかな。

話し合ったことをもとに、4コマCMをつくろう。



▲兵庫県立コウノトリの郷公園内にある豊岡市立コウノトリ文化館

●コウノトリを生かしたまちづくり

みさきさんたちは、コウノトリの写真やえいぞうを見ながら話し合いました。



「豊岡市は、コウノトリを守り、育てるまちとして、とても有名だそうだよ。」



「日本のコウノトリは、一度ぜつめつしたって聞いたことがあるよ。」



「豊岡市にある兵庫県立コウノトリの郷公園では、たくさんのコウノトリを飼育しているそうだよ。」



▲トラクターのそばにいるコウノトリ



▲コウノトリ育む農法で育てられた米



豊岡市役所の人の話

コウノトリは、どじょうやかえる、へびなど田んぼにいる生き物を好んで食べます。農家は、農薬や化学肥料をなるべく使わないで生き物をふやす「コウノトリ育む農法」で米をつくっています。豊岡市では、コウノトリを守るために減農薬や無農薬でつくった農産物を売り出しています。多くの人に、わたしたちのつくった米や野菜を食べてもらえたらうれしいです。



加東市マスコット「加東伝の助」紹介

名前： 加東 伝の助 (かとう でんのすけ)
出身地： 加東市社50番地
初登場： 2008年11月5日(水)20時30分
年齢： ずっと15歳前後(変わりません)
趣味： 多くの人にいろんなことを伝えること
好きな言葉： 夢と元気
尊敬する人： 小寺彦兵衛さん
チャームポイント： 髪型が加東の「か」

ふるさと学習「かとう学」副読本改訂委員会(わたしたちの加東 担当)

監修	吉水 裕也	関西学院大学 教授	2024年度委員
アドバイザー	吉川 修史	兵庫教育大学 講師	藤原 良二 三草小学校 校長
編集委員	井上 聡	社学園小学校 校長	宮苑 聖輝 社学園小学校 教員
	朝井 善和	社学園小学校 教員	沖村友一朗 福田小学校 教員
	友國 優生	社学園小学校 教員	小島 大輝 三草小学校 教員
	井上 公喜	社学園小学校 教員	
	久保 樹	滝野東小学校 教員	
	福岡 寛大	滝野東小学校 教員	
	西澤 美菜	滝野南小学校 教員	
	小倉蒼太郎	東条学園小中学校 教員	
	阿萬野智仁	東条学園小中学校 教員	

加東市社会科副読本 3年生・4年生

わたしたちの加東

ふるさと学習「かとう学」

発行日 令和8(2026)年3月31日
発行 加東市教育委員会
編集 こども未来部 小中一貫教育推進室
〒673-1493 兵庫県加東市社50番地
TEL0795-42-3301(代)
FAX0795-43-0559